# 愛知東邦大学 シラバス

| 開講年度(Year) | 2023年度 | 開講期(Semester) | 前期 |
|---|---|---|---|
| 授業科目名(Course name) | 心理学実験Ⅰ | | |
| 担当者(Instructors) | 橘 廣 | 配当年次(Dividend year) | 2 |
| 単位数(Credits) | 2 | 必修・選択(Required / selection) | 選択 |

**■授業の目的と概要(Course purpose/outline)**

心理学実験について体験し、実験の計画立案、統計に関する基礎的な知識を学ぶこと、さらに実験の方法、結果の集計方法や考察の仕方など、レポートのまとめ方を学ぶことを目的とする。また実験法、検査法、観察法、調査法の基礎的な事柄を学習する。受講者は各自実験者として実験を行うだけではなく、実験参加者にもなり、毎回の授業でレポートの提出を行う。対面授業で実施する。

**■授業形態・授業の方法(Class form)**

| | |
|---|---|
| 授業形態(Class form) | 講義 |
| 授業の方法(Class method) | 講義と演習形式で授業を行う。<br>グループワークやディスカッションを取り入れ、実験結果についてプレゼンテーションを行う。 |

**■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)**

| 回数(Num) | テーマ(Theme) | 内容(Contents) | メディア区分(Media) |
|---|---|---|---|
| 第1回 | ガイダンス | この授業を受講するうえで重要となる事項や留意点を説明する。また成績評価や授業計画などを説明する。 | □ |
| 第2回 | 心理学の概要、レポートの書き方 | この授業で扱う心理学の領域の基礎知識を確認する。レポートの書き方を学術論文を通して解説する。 | □ |
| 第3回 | 実験法：ラテラリティ（１）概要解説、「問題と目的」 | 左右の大脳半球機能差に関する実験の背景や実験方法（近赤外線分光法を含む）を解説し、レポートの「問題と目的」部分を書けるようにする。 | □ |
| 第4回 | 実験法：ラテラリティ（２）実験、「方法」 | 半球機能差に関する実験を、手指操作実験を通して行う。また、レポートの「方法」部分を書けるようにする。 | □ |
| 第5回 | 実験法：ラテラリティ（３）集計・分析、「結果と考察」 | 手指操作実験のデータを基に、集計および分析を行う。レポートの「結果」と「考察」部分を書けるようにする。 | □ |
| 第6回 | 検査法：S-HTPの実施・分析 | 教育現場でよく使用されるS-HTPを実施・分析し、レポートを提出する。 | □ |
| 第7回 | 検査法：S-HTPの解釈、子どもの心の危機 | S-HTPの解釈法を理解し、S-HTP法による描画テストから、子どもの心の危機についてレポートを提出する。 | □ |
| 第8回 | 観察法：観察法（パズル解決過程）の実施・分析 | 観察法の体験として、観察法の基礎的な事柄を学習した後、パズルを協同で解く際の相互作用を別室よりカメラ撮影し分析し、レポートを提出する。 | □ |
| 第9回 | 調査法：概要説明、質問項目の作成 | 質問項目の作成上の注意点など調査法の基礎的な事柄を学習した後、関心のあるテーマを決定し、工夫した質問項目を作成し提出する。 | □ |
| 第10回 | 調査法：調査、集計・分析、レポート作成 | 調査を実施し、データの集計・分析、レポートを作成し提出する。 | □ |
| 第11回 | 実験・調査の計画 | 実験・調査の実施計画を立て、予備的な実験・調査を行い、レポートを提出する。 | □ |
| 第12回 | 実験・調査の実施 | 個人あるいはグループで実験・調査を行い、他のグループの参加者にもなる。経過をまとめたレポートを提出する。 | □ |
| 第13回 | データ分析 | 実験・調査から得られたデータを分析及び考察し、レポートを提出する。 | □ |
| 第14回 | グループでの発表・討論 | 実験結果を発表し討論を行い、レポートを各自提出する。 | □ |
| 第15回 | まとめ | この授業のまとめを行い、課題レポートを作成し提出する。 | □ |

**■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)**

事前学習として、各実験で扱うキーワードについて調べてくる。実験前には、レポートの「問題と目的」部分は書き上げておく。さらに、実

験後はデータの解釈を行ううえで重要となる論文を調べる。特に実験後の検索はレポートの「考察」部分で重要な作業となる。これらのことを踏まえ、配布された資料や参考図書などを基に学習をする（2時間程度）。 事後学習として、授業の終わりに提示した課題について学習をする（2時間程度）。

**■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)**

各授業回の課題は、まとめて翌週フィードバックし、全体で共有する。

**■授業の到達目標と評価基準(Course goals)**

| 区分(Division) | DP区分(DP division) | 内容(DP contents) |
|---|---|---|
| 思考力・判断力・表現力 | ◆ 2019人間健康DP2 | 問題意識を持った心理学的テーマで実験・調査を実施し、得られたデータから問題の解決策を探求できる。 |

**■成績評価(Evaluation method)**

| 筆記試験(Written exam) | 実技試験(Practical exam) | レポート試験(Report exam) | 授業内試験（in-class exam) | その他(Other) |
|---|---|---|---|---|
| | | | 90% | 10% |

**授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)**

毎回授業時に提出するレポート(40%)
第15回授業時に提出する課題レポート（50%）
授業貢献度（10%）

**■テキスト(Textbooks)**

| No.(No.) | テキスト名など(Text name) | ISBN(ISBN) |
|---|---|---|
| 1 | 適宜資料を配布する。 | |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

**■参考図書(references books)**

| No.(No.) | テキスト名など(Text name) | ISBN(ISBN) |
|---|---|---|
| 1 | 小河妙子他編　「心理学実験を学ぼう」　金剛出版 | 978-4-7724-1160-8 |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |